

は し が き

このテキストは、これまでに本格的な「リスニング」の訓練を受けたことのない学習者向けに編集されたものです。リスニング力は英語のナマの音声にただ慣れ親しんでいけば自然に身につくというものでは決してありません。他の技能と同様、組織的な方法により段階を追い、興味を持続しながら学習を進めていくことが最も効果的な方法です。限られた授業時間の中でリスニングの力をつけるには、どのような方法が効果的であるかを3年間にわたって検討・吟味してきた結果、出来上がったのがこの *Step-up Interactive Listening* です。

このテキストの特徴は、次の6点に集約できます。

1. 学習手順が明確で、取り組みやすいタスクを設定。
2. 身近な場面や容易な題材をとりあげ、学習者にとって意味のある聞き取りが行われるように“dialogue”のみならずニュース、スピーチ、アナウンスなど“monologue”も選定。
3. 世界共通語として英語が多岐に使われている事実を踏まえ、対話に非英語圏の人々も登場させ、Varieties of Englishにも配慮。
4. 対話の選定に際しては、文法的な結びつきや語彙的な相互関連性はもとより、内容の自然な流れや一貫性も重視。
5. 対話においては、完全文でない発話も適宜入れ、繰り返し、言い間違い等も取り込み、自然な談話の特徴を反映。
6. 発話内の言いよどみやポーズ、話者の交代 (turn-taking) の間合いにも十分配慮して音声テープを作成。

このテキストは全部で20課で構成されていますが、各課のねらいは次のとおりです。

A Pre-Listening Activities

リスニングを始める前の導入となります。

新出語句について意味を確認した上で、それを音声で識別します。課によっては文完成や簡単な対話完成、内容に合ったイラストを選択する問題になっています。ここでのすべてのタスクは、次の In-Listening Activities をスムーズに行うための準備となります。

B In-Listening Activities

本格的なリスニングの活動を2つのタスクにより行います。

最初のタスクでは、主に dialogue や monologue の話の流れを把握できているかどうかの確認をします。次に内容の細部についての理解度を、文(章)完成、多肢選択、True or False、表完成、対話完成等でチェックします。

C Post-Listening Activities

リスニングの活動を発展させた表現練習が中心となります。

In-Listening Activities で扱った dialogue や各種の monologue を踏まえて、口頭で発表する活動を行います。さらに、自己表現力も養えるように工夫してあります。

以上の3つの Activities のほかに各課の最後には Phonetics Corner が用意されています。ここでは発音上の重要なポイントを本課の内容に関係づけて説明してありますので、Post-Listening Activities の表現練習を行う際には是非利用することをお勧めします。

本テキストは、とかく敬遠されがちなりスニング学習を、親しみやすい題材と取り組みやすいタスクとを組み合わせることで、「学習負担の少ない教材」となっているものと信じております。このような編集意図を理解していただき、本テキストが多くの方々に活用されることを願っています。

本書の出版に当たっては、金星堂編集部の嶋田和成さんと山口あつ子さんに、企画から発刊まで終始あたたかい励ましをいただきました。心からお礼申し上げます。

1999年8月 著者